

つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

南池袋遺跡見学会

南池袋に現れた煉瓦基礎 ～日本の写真産業の先駆け 東洋乾板^{かんばん}～



開場直後の様子。
長蛇の列に驚きを隠
せませんでした。



さわれる遺物も大人気

ガラス乾板^{かんばん}——すなわち現代のフィルム
やSDカードの原型が日本で初めて生産さ
れたのが南池袋だったということをご存じ
でしょうか。

去る2022年秋に豊島区役所の目の前
で行っていた南池袋遺跡の調査で煉瓦^{れんが}の
建物基礎などが発見され、これをうけて、
2023年2月4日(土)に見学会を開催しま
した。初春の暖かい日差しのなか、予想を
上回る1430人もの方々が訪れ、大盛況の

一日となりました。

見学の目玉となったのは大正8(1919)年
に設立された東洋乾板株式会社に関する
遺構・遺物です。この会社は日本で初めて
ガラス乾板を生産した企業で、日本の写真
産業の草分けといわれています。

当日は、ガラス乾板の研究所であった建
物の煉瓦基礎およびその周りから出土した
ガラス乾板、現像器具などの研究所の道具
などをみることができました。

現地には、地域にお住まいのご家族連れ、建築・考古学ファンや研究者など様々な方がいらっしやいました。



煉瓦にふれたり刻印を探したり…

煉瓦基礎や遺物に直接手に触れたり、煉瓦基礎が一望できるフォトスポットで記念撮影をしたり…と思いいに楽しんでいただけました。

とりわけ予想外に人気だったのは、畑の

畝、ガラス瓶や徳利です。池袋の中心で畑が見られることに驚かれる方や、つい 100 年ほど前のノスタルジックな遺物を前に、初めて出会う来場者の方同士で語り合う楽しい場面もみられました。徳利にはかつての雑司ヶ谷の地名である「水久保」と書かれているものもあり、地域にお住まいの方には懐かしく感じられたようです。

3 月に現地調査は終了し、発掘調査報告書の刊行に向けて整理作業が進行中です。新たな発見がありましたら、またご紹介したいと考えております。（梶木理央）

「わたしの発掘体験記その 1」@南池袋

2021 年 8 月に南池袋遺跡再開発地区の発掘調査が開始された当時、私は大学 2 年生で、埋蔵文化財調査の仕事に携わるようになっておよそ 5 か月ほどでした。発掘現場で必要なスキルもまだまだ持ち合わせておらず、与えられた仕事をこなすことが精いっぱいだったことを覚えています。何をしてもそれが正しいのかわからず不安で仕方がなくて…。そんな中で行った作業は全部記憶に残っています。（S 1 北区の壁セク図などなど）

最初は、正直に言うと不安 9 割で参加していた現場ですが、半年が過ぎた頃にはすっかり慣れ、夢中で調査に参加して

いました。楽しくて仕方なかったです！長いと思っていた 1 年半という期間は、いざ振り返ってみると気づいたら終わっていたと言って良いほどあっという間でした。東洋乾板株式会社の建物基礎の発見や、トイレ（便槽）に囲まれたこと、様々な体験をすることができた現場でした。

あの量のガラス乾板を今後見ることはないだろうと思っています。（大河原和穂）

遺構の中の瓦を検出している私。移植ごてやクギ、ハケなどを使った細かい作業です。



駒込地域文化創造館
文化カレッジ

「駒込・染井 歴史再発見！」

6 月 17 日に座学、24 日に街歩きをそれぞれ実施しました。染井遺跡・駒込一丁目遺跡の黎明期の発掘調査、そして最新の調査成果をご紹介します。また、駒込一丁目遺跡では幸運にも調査中の弥生時代の住居址の様子も見学できました。今秋もいくつか講座が予定されていますので、会員の皆様も奮ってご参加ください。（梶木）



薄曇りで快適に歩きました。駒込一丁目の時田鎗次郎邸付近での様子。

皆さん熱心に遺物をご覧になっていました。



「あ！それメノウですよ！！」

2022年10月25日の午後、南池袋遺跡のS4調査区内に私の声が響き渡った。掘削を行っていた作業員の方々が驚いた表情でこちらを振り返ったのをよく覚えている。

思えば私とメノウの関係を振り返ると、幼少期は小学校から帰るとすぐに鉱物図鑑を読み漁るような子供で、両親に買ってもらった鉱物を毎日のように手の中で大切に愛でていた。やがて、そんな私も高校生になり本格的に鉱物採集をするようになったことで、茨城県でメノウが産出すると知り、興味を持ち始めた……そんな事がきっかけだったように思う。

「卒業論文では絶対に茨城県のメノウをやろう。」そんな意気込みで大学生活を送り、無事に卒業論文も茨城県のメノウで執筆を行った。題材は『縄文時代におけるメノウ製石器の加熱処理』だ。加熱処理とは、石器製作に不向きな特定の硬い岩石に対して、熱を加えることで岩石の性質を変化させて、加工を容易にするという石器製作技術の1つである。

前述したとおり、茨城県北部はメノウの原産地であり、常陸大宮市を流れる久慈川の河原では現在でもメノウを拾うことができるため、鉱物採集家たちの憩いの場となっている。これらのメノウは、久慈川よりもさらに県北にある諸沢・北富田地域の岩層中に形成された後に、河川の転石として久慈川へ流れ込んでいると考えられている。

この地域で見られるメノウの多くは、白色で透明感があり多少の不純物

を含んだいわゆる「白メノウ」だ。これら白メノウは、縄文時代には石器の石材として利用され、やがて近世になると本格的な採掘が行われるようになり、メノウ製の火打ち石として利用された。

茨城県のメノウ製火打ち石は「水戸火打ち」と呼ばれる一大ブランドとして、主に江戸時代から昭和初期にかけて江戸を中心に広く利用されていた。また、発火の際に使う火打ち金は群馬県高崎市に所在する吉井本家で生産されており、「吉井の火打金」として上記の火打ち石と併せて江戸へ出荷されていた。当時を知る資料として、これら火打道具を露店で売る姿を描いた絵が残されている。また、これら吉井本家の火打道具一式は現在でも販売されているため、購入が可能である。

そんな私が愛してやまない茨城県のメノウ製火打ち石が調査区で出土したのだ。あの拳大の立派で優美な石を見た時、あまりの喜びについ声を漏らしてしまった。しかし、私の歓喜の声に対する作業員の方々の反応は寂しく、苦笑いを浮かべながら奇異の目でこちらを見つめるのみであった。私は考古学における「モノの価値を伝えるということ」の難しさを深く実感した。

(栗原七海)



私が惚れ込んだS4区出土の火打ち石。良質な白メノウが使われており、太陽に透かすと優美に光り輝く。

既刊発掘調査報告書・ブックレットの紹介

<豊島区教育委員会刊行>

『巣鴨町XⅢ』 豊島区埋蔵文化財調査報告 56 巣鴨遺跡（巣鴨地域文化創造館公衆トイレ棟・門地区）の発掘調査



本書は巣鴨地域文化創造館の公衆トイレと通用門建設地点における調査成果を収めたもので、江戸時代は巣鴨町の町屋が存在しました。町屋の軒先と思われる柱穴や硬化面、地鎮めのために泥面子を埋納した状況が検出されました。また、近代の礎石建物の根石も発見され、近代に移り変わる巣鴨町の様子もうかがうことができました。（梶木）

<としま遺跡調査会刊行>

『染井 32』 としま遺跡調査会調査報告 18 染井遺跡（インプレスト駒込染井地区）の発掘調査



本書掲載地区は、染井通りの北側に位置し、江戸時代には植木屋が集住していた地域です。今回の発掘調査では、植木鉢などの植木屋に関連した遺物が多く出土し、土を採取した坑（採土坑）や地下室、生垣などの遺構が見られました。また植物が重複して植えられていた痕跡（植栽痕）も発見され、江戸時代の染井植木屋の営みの一部が、明らかとなりました。（榎本邦人）

<としま遺跡調査会刊行>

『旧感応寺Ⅱ』 としま遺跡調査会調査報告 19 旧感応寺境内遺跡（グランダム白武番館地区）の発掘調査



江戸時代の目白3・4丁目、西池袋2丁目の一角には、「鼠山感応寺」という寺院が、天保5（1834）年～13（1841）年に存在しました。今回の発掘調査では、感応寺建立以前の安藤家下屋敷の時期と推定される溝状遺構や、感応寺以降の時期に埋葬されたと考えられる馬の遺骸が4体見つかり、当時の土地利用を知るうえで、大きな成果を上げることができました。（榎本）

<としま遺跡調査会発行>

『染井遺跡発掘調査からみる藤堂家染井屋敷のくらし』

NPO 法人としま遺跡調査会ブックレットNo.1 巣鴨百選



巣鴨百選に掲載された発掘調査速報より「藤堂家」の部分を選抜した一冊です。第2弾巣鴨遺跡「武家屋敷」編も現在鋭意編集中です。

【編集後記】

- 大変で心配とで迷惑をおかけしましたが、久しぶりに発行できました。初めて編集を担当しましたが、いかがでしたでしょうか。ご意見ご感想お待ちしております。
- 現在南池袋遺跡の整理作業を行っています。その様子もいずれで紹介いたします。（か）

「つたのは通信」の由来： 蕨は大きな樹ではありませんが、生命力が非常に強い植物です。この蕨の葉が周囲の樹木や建物につたい茂るように、多くの人に遺跡の楽しさ、大切さを知ってもらいたいとの願いを込めて会報の名としました。 また、染井遺跡を代表する大名屋敷である津藩藤堂家の家紋としても、馴染み深い植物です。

～遠足を計画中です！～

発掘調査で発見された遺物の行く先、気になりませんか？

修学旅行第3弾 10月7日（土）

（会員・賛助会員限定）

詳しくは後日お知らせします！

楽しみにお待ちください。

編集・発行  特定非営利活動法人
としま遺跡調査会

〒170-0021 東京都豊島区西池袋2-30-15 文化財資料調査室

Tel・Fax 03-3981-4880

E-mail tics389@a.toshima.ne.jp

ホームページアドレス：http://www.toshima-iseki.org/

題字：湯澤和子

ロゴデザイン：石原幸